

ワクチン	感染症	ウイルスまたは菌の種類	感染経路	感染しやすい場所	発症までの潜伏期間	症状	危険度	
狂犬病ワクチン (義務)	狂犬病	リッサウイルス	感染した犬の唾液、咬傷を通して感染	-	2 - 8 週間 (24 週間の例もある)	行動障害、神経障害、唾液流出、嘔下困難、死亡（発症後の治療はしない）	★★★	
混合ワクチン (任意)	5 種	パルボウイルス (CPV)	感染した犬の糞（長期間環境に潜伏し感染力が高い）、糞に汚染された衣服からの間接的感染	日常生活周辺あらゆる場所	2 - 10 日	高熱、下痢、血便を伴う胃腸炎、免疫低下、死亡	★★~★★★★	
		犬ジステンパー (CDV)	感染した犬の糞や分泌物が口または鼻粘膜に触れることで感染	草むら	3 - 7 日	食欲減退、元気消失、高熱、激しい嘔吐、下痢、くしゃみ、鼻水、咳、呼吸困難、結膜炎、行動障害、神経症状、視力喪失、けいれん、脳炎、死亡	★★★	
		犬伝染性肝炎 (H.c.c)	アデノウイルス 1 型 (CAV-1)	感染したイヌ科動物（犬、キツネなど）の糞尿・唾液・鼻分泌物、間接的な感染が可能	草むら、山	2 - 5 日	発熱、食欲減退、腹痛、むくみ、点状出血、下痢、肝障害、神経障害、黄疸、角膜白濁、急性の場合発症から数時間以内に死亡	★★★
		犬伝染性咽頭気管炎	アデノウイルス 2 型 (CAV-2)	-	犬が過密にいる場所	4 - 10 日	ケンネルコフ 発熱、乾いた咳、咽頭周囲の炎症、気管支炎、目やにを伴う結膜炎、鼻炎	★
		パラインフルエンザ	パラインフルエンザウイルス タイプ 2 他	不衛生な飼養環境、過密な飼養、イベント会場、ストレスなどによる免疫低下時に飛沫（唾液・鼻水）によって感染	犬が過密にいる場所	4 - 10 日		★
	6 種	腸炎	犬コロナウイルス (CCoV)	感染した動物の糞や汚染された食物・水、感染した犬との接触による経口感染	日常生活周辺あらゆる場所	24 - 36 時間	激しい下痢、嘔吐、神経症状、腹膜炎、呼吸器系障害、重症の場合死亡	★★~★★★★
		7 種以上	レプトスピラ症	レプトスピラ菌 血清型イクテロヘモラジー 血清型カニコーラ 血清型コペンハーゲニー 血清型ヘプトマディス	感染したネズミなど野生動物や犬の尿、汚染された水（池や湖など含む）や土・食物が粘膜や傷口に触れることで感染	水の流れの少ない池や湖、街の中でもネズミがひそんでいるような場所、発生に地域差がある	5 - 7 日	食欲減退、嘔吐、発熱、黄疸、胃腸炎、血便、口腔粘膜の潰瘍・壊死、けいれん、血液凝固障害による出血、腎障害・尿量減少、むくみ、死亡率約 10%、ヒトへの感染あり